



新潟青陵幼稚園だより

令和4年度
10月号
9月27日

幼稚園と小学校を滑らかに接続するために

園長 太田 伸男

幼稚教育と小学校教育との違いについて、上越教育大学大学院 白神敬介 准教授は、次のようにまとめ、学童期初期（1～2年生ごろまで）は幼児期の認知特性を有しているとしています。

	幼児期教育	小学校教育
教育目標	方向目標（間接的な教育）	到達目標（直接的な教育）
教育内容	【領域】健康，人間関係，環境，言葉，表現	【教科】国語，社会，算数，理科，生活，体育，音楽，図画工作，家庭
教育方法	環境を通じた保育 遊びを通じた総合的な保育	授業の中でねらいを明示 教科書中心の指導
学びのプロセス	「学びの芽生え」	「自覚的な学び」
発達の姿	五感を伴う具体的体験による認知 試行錯誤による経験値の獲得 言葉よりもイメージ 重要な他者との親密な関係	概念を用いた抽象的思考による認知 仮説推論による論理的な知識 言語による複雑な概念の理解 多様な他者との社会的関係構築

また、幼稚園から小・中・高等学校までの学習指導要領等では、幼児児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、「知識及び技能」の習得と、「思考力，判断力，表現力等」の育成，「学びに向かう力，人間性等」の涵養という，資質・能力の三つの柱を共通して育成することがめざされています。そのため，幼稚園から高校まで，「主体的対話的で深い学び（アクティブラーニング）」という体験や活動を取り入れた学習指導が行われています。小学校では，生活科や総合的な学習の時間を中心に全教科で実践されています。幼稚園で育った主体性が効果を発揮していきます。

しかし，幼小の段差が大きいために，入学したばかりの1年生で，集団行動がとれない，授業中座ってられない，話を聞かないなどの状態が数か月継続する「小1プロブレム」が起きることがあります。

そこで，段差を低くするために，「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を幼小の職員が共通に理解し，小学校入学期には「スタートカリキュラム」が作成されています。



引用：中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
幼児教育部会（第10回）配付資料（H28.10.31）

新潟青陵幼稚園では，幼小の接続をより滑らかにするために，小学校との連携に取り組みます。

まず，小学校の先生方から幼稚園教育を知ってもらうため，9月28日（水）に関屋小学校・鏡淵小学校・新潟小学校・附属新潟小学校の校長先生方から幼稚園を参観に来ていただきます。その後，小学校の先生方からも参観にお出でいただきたいと考えています。幼稚園からも小学校へ参観に出掛け，年長児と1年生との交流も再開してみたいと思っています。

文部科学省では今年度から3年間，5歳児から1年生までの2年間に渡る「架け橋プログラム」を作成するプロジェクトを開始しました。新潟青陵幼稚園では，小学校の事前学習ではなく幼小相互の違いを尊重し合う接続カリキュラムになるように，上記4小学校と近隣幼稚園・保育園と連携して作成できたらよいと考えています。

保護者の皆様からのご理解とご協力を，よろしくお願いいたします。